



### 黄 幸素

### (H13 奨学生、台湾)

留学生時代では何が身についたかと自分に問うなら、何かを成し遂げるまでの寂しさと苦痛を乗り越えられるその精神力だと思います。



博士論文を捲るたびに、思わず寂しさがこみ上げてきました。すじが通る二十万字以上の日本語をかき集めるのには容易いものではなかったからです。特に留学生の私にとっては、そういった言葉上の弱みがあるため、書き上げるまではかなりの時間を費やし、磨きに磨きをかけていたその神経がすり減った苦痛を強いられていました。そんなところで、財団の主催した食事会に出るのは、何よりも和みを感じさせてくださる一時となりました。特に、会長の「温和な表情」と、

理事長の「微笑み」が何とも言えない癒しでした。その癒された経験は今の仕事に生かしています。

かつては日本語を厳しく教えていました。厳しく要求すればするほど上達に繋がっていくと信じ込んだからです。そういった考えで、強制的に日本語を言わせたりしていました。その厳しい指導のもとで学生が寄って来なくなりました。ある日、財団で癒された経験をふっと思い出しました。自分もその癒しを求めていたのに、なぜ学生が日本語を勉強するその大変さを顧みないかと反省していました。そこから、自らに「温和な表情と微笑み」で学生に向かおうといつも言い聞かせています。そういった反省のおかげで、学生も寄ってくるようになり、授業評価も谷底から鰻登りのように上昇しつつあります。今は学生とともに、日本語の勉強を楽しんでいます。「温和な表情と微笑み」はやはりなんとも言えない癒しですね。会長と理事長、ありがとうございました。

### 倪 悦勇

### (H17 奨学生、中国)

来日したばかりの2歳の長男を連れてはじめて財団の年忘れパーティーに参加した記憶がまるで昨日のことのようだ。現在長男は既に小学3年生で、弟の面倒を見てくれるお兄ちゃんになった。



この作文を書きながら、留学生活の様々な思い出を懐かしく思い出した。私は進んだ環境技術に憧れて日本にやってきた。学業を終えて、現在ある日本電機メーカーの環境部門責任者として務めている。日本の環境技術、日本企業の環境対応は確かに素晴らしいが、世界への発信不足で、国際的に認識、活用されていないのが現状である。仕事をしながら業界活動に積極的に参加し、日本の環境技術や環境対応のノウハウを世界に広げられ

ばと考える。実現できれば、きっと私の母国である中国をはじめ、多くの発展途中国に役にたてると信じている。

日本留学は私にとって、自分自身の再認識、再発見の旅であった。「他人に頼らず、完全に自分の力、自分の努力でどこまでできるのか」自分への挑戦であった。自分のポテンシャルそして限界を知り、自分ができること、やりたいことそしてすべきことを見つけた。この旅は本当に楽しかったが、つらい時期もたくさんあった。家庭を営みながら、博士の研究で試行錯誤を繰り返していた私にとって最もつらい時期に、岡本財団と出会った。うれしいことも、悲しいことも、楽しいことも、つらいことも分け合える大家族が出来て、毎月の例会が待遠しかった。OSF 大家族のお陰で今の私がいる。一生 OSF の一員として、初心を忘れず、自分ができることを肅々に頑張っていきたいと思っている。

今年はどんな1年でしたか？このコーナーではOB(OG)の皆さんの原稿を募集しています。卒業してからお会いすることはなかなか叶いませんが、皆さんがどうしていらっしゃるか、いつも気になっています。今のお仕事、ご家族の事、あるいは学生時代の思い出、今の留学生に伝えたいこと――。

なんでも結構です。皆さんの声をお聞かせください。

来年はどんな年になるでしょうか。～皆さんお元気で！良いお年をお迎えください。～

## 千葉大祭に出店

◎11月4日、千葉大祭に会館生出店する。お天気にも恵まれ、自慢の各国料理が飛ぶように売れた。会館生の皆さんお疲れ様。来て下さった皆様ありがとうございました。



## 会館ニュース

◎メンディ君（千葉大、モンゴル）が退館し、同じモンゴルのモイヨ君（千葉大）が入館。立派な体格の好青年。先が楽しみだ。

## マラソンに挑戦

◎12月9日、八千代市で開催されたリバーサイド10キロマラソンに参加。会館生8人に板倉さんの9人が出場し、みごと全員完走した。皆、来年もぜひ走りたいと息を弾ませていた。



## OBニュース

◎10月29日、ドディさん（H15 奨学生、インドネシア）来団。千葉大で開催されたインドネシアとの交流会出席のため来日。

母国の大学教授として活躍している。

◎11月10日、タン君（H14 会館生、ベトナム）が両親と奥さん、二人の子供を連れて来団。幸せそうなご家族でした。

◎9月、リン・ピックホーンさん（H15 会館生、マレーシア）に長女晴香ちゃん誕生。

◎11月19日、金藍洋さん（H17 奨学生、中国）に長男正辰君誕生。

◎11月26日、タンティ・ミビンさん（H20 会館生、ベトナム）に長女ルオン・ハイ・チャウちゃん誕生。

♡～おめでとうございます～♡



ドディさん



タンさん家族

## 年忘れパーティー

12月8日



周さんヤンさんの絶妙な司会



世界一の美女ヤンさんの登場



爆笑のカンナムスタイル



華麗なウイグルダンス



## K.K. チャミリ・クマラ (奨学生)

スリランカ (ケラニア)

千葉大学融合科学研究科 情報科学専攻

### 日本の習慣や常識とスリランカとの違いについて

私が、日本の習慣や常識で、感動したことは「無償で人に親切にする」ことです。スリランカでは外国人に親切にする時、お金を期待する人が多いです。日本に来て初めの頃、道に迷っていると目的地まで連れて行ってくれた人がいました。私は、「ありがとうございます。いくらですか。」と言うと、笑って手を振って行ってしまいました。

私の留学生活の中で、最も日本人の親切さに助けられたのは、母を心臓発作で亡くした時でした。その時、研究室にとっても厳しい先輩がいて、私とはいつも話をしてくれませんでした。ただ、その時だけは、他の研究室の人たちからカンパをして帰りのチケットに使ってくれと、渡してくれました。私は、お金をくれたことよりも、忙しい中、自分のために行動してくれたことがうれしかったです。ただ、私はそのお金を使わずとっておきました。

日本に来て、たくさん親切にしてもらいここまでやってこられました。でも、私はいつも申し訳ないと思っています。なぜなら、私自身は、親切にしてくれた人たちに何もしていないからです。私ができることは感謝することと、恩返しをしたいと思っています。そこで、少しでも恩返ししたいと思い、東北地方太平洋沖地震後は、スリランカの仲間とカレーを作り配るために福島に行きました。その時、先輩たちがチケット代にくれたお金を使いました。



私はまだ大学院生なので、社会に貢献するほどのものを持っていません。早く、研究で結果を出して日本で学んだことを役立てたいです。スリランカは3年前に26年続いた内戦が終わりました。みんなで一生懸命、生活を良くしようと働いています。私は、スリランカの情報科学の発展に関わり、勉強をしたい学生に日本での研究の成果をみせたいです。それと、日本人から学んだ無償で人に親切にする「心」も持って帰りたいです。

## 張 穎 (会館生)

中国 (ハルビン市)

千葉大学工学研究科 デザイン科学専攻

### 二度目の挑戦

私は張穎と申します。2009年中国の東北林業大学の木材科学専攻を卒業して、2010年に日本に留学してきました。日本語学校で15ヶ月をかけて勉強し、ゼロから教えてくれた優しい先生のお陰で、2011年3月日本語学校を卒業し、千葉大学と縁を結びつけました。

人生は甘いことばかりではありません。この間、関東大震災・放射能汚染もあれば、親が癌のため入院したこともありました。2011年2月に千葉大学工学部の研究生の入学合格書が届いて、担任の先生を始め、家族の皆も誇りに思ってくれました。その時、千葉県へ引っ越せるように、在日の親戚は洗濯機、レンジ、自転車まで用意してくれて、私も何度も千葉市へ来てアパートを契約しました。準備満々で新学期が来るのが待ち遠しいでした。しかし、3月11日に歴史に前例がない東北大震災が発生しました。原発事故のせいで、登校困難、留学生帰国ブーム等によって、指導教員の鈴木先生も私を気にかけて、4月末まで千葉市へ引っ越さなくていいと言ってくれました。その休みを利用して、帰国して両親を訪ねようと決めました。

しかし、3月29日、家に着いた当日、半年間頭痛に苦しんでいた父の病因が分かりました。悪性腫瘍の鼻咽癌でした。その日から入院して、放射線治療のせいで味蕾と唾液腺が壊されて、味わうのはもちろん、食事しようとしても唾が出ないので、難しいことになりました。化学治療の副作用で、髪が抜け始めました。心の中の偉大な父の病氣と闘う様子と面倒をみている母の疲れを見て、何度もこっそり窓を向いて泣きました。そして、病院のテレビで絶えない日本の原発事故の報道を見て、戻らないで家族と一緒にがんばろうという周りの声が大きくなって来て、帰る日が近づくと共に、不安になって来ました。

ストレスがたまって、最後に両親の前で泣きながら退学の取り決めを言い出しました。その時の親はため息しかでないほど残念な気持ちだったと思います。

皆に信じてもらえないかもしれませんが、これが私の退学の一部始終です。その後、家族の皆と一緒に病氣と戦いながら、日本にあった色々はまだ始まらない日本の学業を諦めきれないでいました。父の病状と日本の原発が少し好転してから、そんな私を見ぬいた両親が、自分の夢のため日本に戻りなさいと言ってくれました。親と鈴木先生のお陰で、去年10月に日本に戻りました。

人生は一度切りだから、二度目の機会を大切にしながら、自分の未熟な行為を反省しています。父の病氣で自営業の店が閉店になり、預金の大半も使ってしまった。そんな経歴があった私は今、何のために戦うのか、何を守りたいのかがわかるようになり始めました。人生、苦があれば、楽もある。よかったのは、千葉大学の院生になったことです。また、張曉静さんのおかげで、会館に入って、岡本家族の一員になって本当に嬉しく思います。皆の優しさと暖かさを感じながら、日本へ留学した私たちはもう寂しくないです。特に自分の親に負けないほど愛してくれるお父ちゃんとママちゃんに心から感謝しています。

今私は、里山保全を目的とする、千葉県いすみ正立寺の地域づくりプロジェクトのメンバーであり、日本の未利用森林資源と休耕地に着目して、グローバリゼーションが進むなか、今日の里山林のあるべき姿というテーマで卒業研究を行っています。また、卒業して、しばらく日本で仕事をしながら日本のいろいろ優れているところを学びたいのです。いつか立派な社会人になって帰国して日中友好と中国の発展に励みたいと思います。

「留学しないと本当の自分と出会えない」という言葉を留学生の皆さんと共有し、頑張りたいです。



